



AA日本ニューズレター

NPO法人AA日本ゼネラルサービス (JSO)

No.130

新理事としてご挨拶申し上げます

皆様、B類常任理事、本年度は企画担当の野田です。昨年ゼネラルサービス枠で選出を受けました。今年から4年間の任期です。

簡単に自己紹介させていただきますと、ニックネームはビックと申します。山梨地区八ヶ岳グループに所属しており、AAにつながらせていただいたのは約11年前です。20代後半から発症し、精神病院を経験した後AAに辿り着いた時まろうじて20代でした。

その後、本当に多くの仲間の援助を得て現在に至ります。山梨県はAA後発地で、グループ1つが何とか活動している状態でした。今この文章を作っていて、月に1回甲府のミーティングに参加してくれていた東京の仲間のこと、長野県から毎回のようにミーティングに来てくれていてミーティング会場周辺の飲食店の情報については地元メンバーよりも詳しく仲間の事などが頭をよぎります。

私自身は紆余曲折しながら何とかソーパーを重ね、サービスの面では代議員・地区委員・評議員などを経験させていただきました。ゼネラルサービスとのかかわりの中で一番自分にとって大きかったのは、評議会の書記をさせていただいた事だと思っています。夜11時を過ぎて警備員に議場を封鎖された後も、廊下で当時の常任理事を囲んで議論に花を咲かせていた当時の評議員の皆様の情熱に、感染してしまった、という感じでしょうか？

私が常任理事になったのは山梨だからだと思っています。先行く仲間がそれほどいず、自分のようなものでも役割をせざるにいらなかったせいでしょう。1度役割についてしまい(ありがたい事に)、後は輪番に乗って役割をシフトしてきただけのように思います。ですので、特にこれをやりたいとかいうさしせまった熱意や抱負のようなものも正直あまり持ち合わせていません。

近来私が考えている事は、やはり制度の問題です。各地域で評議員が選出できないこと、メ

ンバー数の伸びが思うようでない事などの問題が頻出しており、私自身も閉塞感のようなものを何時も感じていました。

日本の評議会機構は7地域7セントラルオフィス構想によって動いてきたものと承知しています。この構想は第一次の勃興を支えて充分機能した素晴らしいものでした。

今私は、地域の再分割を含めた抜本的な制度改革が必要だと思っています。理事任期中に議案として提案できるかどうか分かりませんが。

企画担当部門では、サービスガイドの改訂や35周年行事などに加えて、理事等の選挙方法など難しい問題が山積しており、私の能力で処理しきれぬのかどうか不安な気持ちもあります。多くの仲間の協力を頂きながら、何とか大過なく理事の役割を果たせればと願っております。

4年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

B類常任理事 企画担当 野田

何年もの間メンバーは4000人前後だと言われ続け、昨年全グループにアンケートを取った結果 500グループ4500名という結果でした。

私は何故仲間が増えていかないのか？グループや地区は一生懸命メッセージを行い、新しい仲間を歓迎しているのに・・・。

何年か酒を止めて、仕事等自分の世界が広がるにつれてAAに来なくなる仲間や、その結果病院に戻る仲間、死んでいったであろう仲間、また飲まないで普通？の生活をしている仲間等色々、まあそれぞれ自分の人生だから・・・しょうがないか？「無償で与えられたものは無償で返そう」「第一のものは第一に」そう聞いていた筈なのに、どうしてだろう？

私は旅によく行きます。でも10万人、30万人の都市でもAAがないよな～

まして、紀伊半島の先、四国の室戸、彼方此方走る度に此処でアル中にならなくて良かった、でも此処にも必ずアル中がいるよな～、そんな人はどうしているのか？そんな事を考えながら旅をします。

25周年の時、アメリカの仲間から、「ステップ5が終わり3～4年のソバが過ぎたら自分のミーティング場を持つ様に提案される。自分のミーティング場を持ってAAの一人前だ」と聞きました。アメリカの仲間全員がそうするわけでは無いのでしょうかが自分がミーティング場を開けば、そのミーティング場がある限りAAからいなくなる事はないかな？そんな事を思い、今でも頭に残っています。実際私のグループで古い仲間がどんどん新しいグループを作り、そのグループから枝が出来て、数えてみたら13年の間に9グループになっています。そしてグループを作った仲間は今もミーティングに出続けています。当然多くのメンバーが繋がっています。東京という環境にあるのでそう出来た事もあると思います。

全国のAAメンバーにお願いがあります。

苦しみながら繋がってくる仲間にも多くの選択方法があるように、新しいグループを作りませんか？また大変だとは思いますが開催するミーティングの回数を増やしませんか？私は東京で3年毎日ミーティングに行ける環境にあったから、今の私があるのだと仲間に感謝しています。

日本の評議会、理事会も発足して10数年すぎ、色々な規約等AA内部の問題は色々議論されてきましたが、私が出席した4回の全国評議会では「今苦しんでいるアルコール依存症者達に救いの手を差し伸べる」その事はほとんど議論しなかったように記憶しています。(私も議論しようよと議題提案しなかった)。

私は自分が考えている事を少しでも実現したければ、その立場になる事が一番だと考え常任理事に立候補しJ S O担当理事になりました。

「今苦しんでいるアルコール依存症者に何が出来るのか」その事を仲間の助けを借りながら少しでも実現していきたいと思っています。そして、いつの日か日本の何処にでも行きたい時にミーティング場がある、そんな環境ができる様に仲間の協力をお願いします。

また、私に何か提案等ある方がいらっしゃれば連絡をください。

shimu25s@yahoo.co.jp 又は電話番号はJ S Oまで問い合わせてください。

B類常任理事 島原

WSM評議員として退任のご挨拶を申し上げます

昨年12月をもちまして無事WSM評議員の任期を終えることが出来ました。皆様の御協力のおかげとっております。私は元WSM評

議員であった金田氏の体調不良のため任期半ばにして退任した残りの任期1年半ほどを任されることになりました。選出に当たってはインターネット上でいろいろと物議(ソバ一年数と語学力)を繰り広げていただきましたが、またそれはそれでこれからの日本AAの良い経験になるのではないかと考えています。

さて任期中、WSM評議員として2006年10月15日から19日にかけてアイルランド ダブリン郊外マハラドで開催されました第19回WSM評議会に参加させていただきました。全世界から評議員たちが集まり、各国のAAの現状や問題点を分かち合いました。ここで感じたことはどの国も諸々の問題を抱えています。それを真摯に受け止め、受け入れそしてAAの原理を踏まえて解決の方向へと前向きに対処している姿でした。そこには神がいる。そして愛すら感じました。すばらしい経験をさせていただきました。このようなすばらしい経験をより多くの仲間達に経験していただきたいと心の奥から感じました。多くの仲間が世界のAAを感じる事が出来ればこれからの日本AAの成長の上でより大きな力になっていくものと思います。全体サービスの経験は必要ですが、日本の中で全体サービスを経験された方ならソバ一年数はクリア出来ていると思います。語学力は二の次です。AAに対する愛と相手を受け入れる寛容さだと私は思います。

また、昨年2007年9月にはモンゴルの第1回評議会に参加させていただきました。日本の評議会のつもりで参加させていただいたのですが、準備のための代表者の集まりでした。アジア・オセアニア地域は大きく、多くの国々が存在しています。その中でサービス機構が確立されている国は数カ国です。日本が果たす役割は大きなものだと思います。又多くのアジアの国々は日本を手本として行くだろうと思います。日本も30数年たち棚卸の時期が来ていると思います。ここでしっかりと見つめ直してアジアに手本となれるよう期待しております。私のほんの少しの経験でいいのであれば幾らでもお使いください。

あらためてこのプログラムの原理は全世界共通で霊的なつながりによって全世界の仲間が手をつなぎ回復への道を歩んでいることを確認しました。

先日6月10日のAA誕生日を挟んでの1週間モンゴルに行ってきました。10周年記念のコンベンションに参加してまいりました。220名のモンゴルのメンバー、韓国、アメリカ、

日本からの仲間も集いにぎやかに10周年を祝いました。昨年第1回評議会で決められた事柄については遅々として進んではおりませんでした。モンゴルの仲間のステップ、スポンサーシップに対する思いは大きく質問攻めにありました。女性のメンバーとは個人的に数時間(4, 5ステップではありません)グループのこと、サービスのこと等話をさせていただきました。スポンサー国として、何が出来るかを考えていただきサービス機構の立ち上げに日本の経験を役立てて下さい。私の少ない経験ですが、出来ることはやっと思いいます。今WSM評議員を退任して、地域にもどり、個人のスポンサーシップを大切にして、共に歩んでいます。又矯正施設小委員会のメンバーとしてどれだけのお手伝いが出来るかわかりませんが、協力していけたらと考えております。

この秋には私の地元島根で全国矯正施設フォーラムが開催されます。その準備に仲間と共に致しております。WSMで得た経験を今後のサービスに活かしていきたいです。私をいつでもお使いください。私の出来ることであれば幾らでも協力いたします。

最後になりますが、WSM評議員を無事終えることが出来ましたことは皆様のおかげと感謝いたしております。ありがとうございました。どこかでお目にかかり、分かち合いをさせていただけることを祈りつつ、楽しみにしております。

24時間平安な一日でありますようお祈りいたしております。

今井(邦)

個人のAAサービスの連鎖

昨年の夏、私達のホームグループに、初めてAAミーティングに参加するという人が来た。仕立ての良いカジュアルスーツを身に纏い、緊張した面持ちで座っていたその女性はミーティングの最後に司会者に促されると、今日初めてAA東北セントラルオフィスに電話した事、グループメンバーから折り返し連絡を貰い、待ち合わせをしてこの会場に来た事、自分が飲酒で困っている事を俯きながら話した。ミーティング終了後、同行したメンバーが皆を紹介し、不安そうな彼女に少し笑みがこぼれた。歓談後、私が喫煙所に行くとき彼女も一息入れに来た。彼女は私と同じ街に住みながら他県の病院に入院している事や家族構成等を話してくれた。どんな風に飲んでいたのかを尋ねると「山型飲酒です」という返事だった。久しぶりに聞く専門

用語に驚きながら、どうやってAAを知ったのか聞くと「インターネットで色々検索して知りました」との事だった。次回またミーティングで会える事を希望すると彼女は「はい、必ず来ます」と嬉しそうに答えた。以降、次のミーティングの参加予定を喫煙所で話す事が彼女との恒例になった。そして12月にスポンサーを依頼され、私は彼女のソーバージャーニーのガイドとなった。

9年前、私が初めてAAに辿り着いた時、東北セントラルオフィスはまだヘルプコールに出来る12ステッパーリストを持っておらず、電話ボランティアシステムも出来ていなかった。AAオフィスに助けを求めるメンバー候補者は電話で得た(送付された会場案内も含め)情報を元にオリエンテーションしながらに自分一人で会場を見つけ、辿り着かねばならなかった。Dr. ボブは仲介者を通してビル.Wと会い、”互いのアルコールリズムとその解決を話した”。それ自体が“Meeting”であり、AAの始まりである。先の彼女はミーティング会場側のバスターミナルでメンバーと待ち合わせた。心もとないまま、約束の場に行くと「綺麗な2人の女性がいて」彼女は「絶対この2人ではないだろう」と思ったらしい。彼女達はまだ30代前半でありながら、8~9年のソーバーメンバーだった。

喫煙所での会話は深く私の胸に残った。AA内外で自分のかつてを話す時も、今の私は「山型飲酒」という言葉は使わない。彼女はきっと自分の飲酒について一人思い悩み、情報を捜し求めたのだろう。彼女の身だしなみや言葉からは貧困や教養の低さは感じられず、むしろ逆で、多分世間一般に流布しているアルコール依存症者の女性像とは一致しない。それらは大抵、偏見に満ちた虚像だが、だから彼女は苦しんだのだろうし、どんなにか孤独で怖かったろう。運良くAAメッセージが届いている病院に繋がった人は幸運だ。もう飲んでいないアルコールに会える。

ホームグループを決め、スポンサーシップを持つ迄、ミーティングに通いながら彼女は自宅の台所にビッグブックを置いていたと言う。夫と子供がいる彼女の『パブ』はかつての私同様、自宅のリビングであり、台所だった。家事をしながら酒瓶に伸びていた手はビッグブックを開くようになった。今も通院している彼女は、主治医やカウンセラーに“HALT”(Hungry→食べる Anger→謝る Lonely→メンバーに電話/訪問する、ミーティングに行く Tired→休む、眠る)というスリッパしがちな危険な状態とその対処について等、メンバーから直接

教えられた AA の経験と力と希望を、どのように自分の日常に取り入れているかを話しているようだ。

先日彼女から「病院での患者のプログラムで、私に話をして欲しいと頼まれたのですが、私はまだあまり話せないと思うのです。どうしたらいいですか？」と相談された。最近の彼女の体調を考え「良ければ私達がメッセージに何うと伝えて」と言った所「AA の人たちが来てくれるのか！？だったら病院内だけでは勿体無い。他の関係機関にも呼びかけるのはどうだろう。AA の人たちの意向を聞いて欲しい」と言われたそうだ。そこでもう少し病院の方々に要望をまとめて頂くように彼女に託した。私達のグループでまかなえるならば単独でメッセージを運ぶが、それ以上であれば宮城地区や、東北地域委員会広報と連携をとる。叶うなら評議員を通じ、常任理事会の協力も望めるだろう。その病院には以前 AA メンバーがメッセージを運んだ経過もあったが、彼女自身、特に AA は勧められなかったそうだ。メッセージにも『時』があるのかもしれない。

この話を書く事については当然、彼女に了解を得ている。同期の入院患者が何人も亡くなっていく衝撃と共に、彼女の話が医療者がとても興味深く聞いて下さる事も話してくれる。彼女の回復していくその姿は、何よりも強力な説得力を持つメッセージとして響いているのだろう。

助けを求める一本の電話が持つ可能性は計り知れない。

宮城地区 旭ヶ丘ビックブックグループ
桂奈子

AA 35周年 in 名古屋

<伝えよう 喜びと希望のメッセージ>

来たる 2010 年、平成 22 年。「中京大学文化市民会館」(名古屋市中区金山 1 丁目 5 番 - 1 号)にて、3 月 12 日(金)~ 14 日(日)の日程で、AA 35 周年記念集会を開催する運

びとなりました。

蒲田で最初の AA のミーティングが開かれてから、この間各地に多くのグループが生まれ、日本全国の至る場所で日々ミーティングが、開かれています。

アルコールで苦しみ、絶望の淵を歩み続けた私達だからこそ、酒のない普通の生活に喜びを見出し、まだ苦しんでいる、アルコールリックに、希望のメッセージを届けることができる事と確信しています。

我々は AA の中で、その活動を通してアルコールの捕らわれから、開放され再生への活路を見出しました。

酒なしには一日たりとて過せなかった私達は、そのつらく孤独な過去の日々を、仲間との触れあいを通じて分かちあい、過ちを繰り返さないために、互いの経験を語り合うもう一人の問題飲酒者との出会いを、何よりも必要としています。

それは伝統 1 にあるように、一人ひとりの回復が、AA の一体性と共にあり、このたび開催される 35 周年記念集会は 我々がもはや孤独ではなく仲間と共にあることを、今一度、改めて思い至る最良のひと時に成ると思います。

日本各地から、そして世界中から名古屋での集会につどい、新たな仲間とのめぐり逢いを通じて、我々の強い絆を、明日に向かって歩む勇気を、確かなものにしていきましょう。

<伝えよう、喜びと希望のメッセージ> をテーマに、多くのメンバーが、また関係者の皆様方が、この趣旨に賛同参加して下さいをこころより期待しております。

ありがとうございました。

AA 日本 35 周年記念集会実行委員会
事務局アトム

編集・発行： NPO 法人 AA 日本ゼネラルサービス (JSO)

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 4F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> aa-jso@cam.hi-ho.ne.jp

(月一金) 10:00-18:00 (土・日・祝) 休